

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970700332		
法人名	医療法人 矢尾板記念会		
事業所名	グループホームかわせみ		
所在地	日光市平ヶ崎609-4		
自己評価作成日	平成 22年 12月 25日	評価結果市町村受理日	平成23年5月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成 23年 3月 10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族同様の雰囲気の中、「安心ある普通の生活」「利用者と職員の相互援助」を心掛け、日々取り組んでいます。ご家族の行事参加が多いホームです。また、診療所が併設しているため利用者・家族共に安心して生活されています。同敷地内には介護老人保健施設があり、様々な行事に参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは市の中心部にあり、日光宇都宮道路沿いではあるが住宅地に囲まれた閑静な場所に位置している。同法人のクリニックの建物の2階に開設されているが、来訪者にわかりやすく階段に表示を行う等の工夫がなされ、入りやすいように配慮している。
職員で作成した「相手を敬い、生きがいと安心のある普通の生活。相互援助を通じ、その人を知ること」を追究。継続は力」を運営理念とし、毎朝打ち合わせ時に唱和し職員間で確認している。さらに、運営推進会議を市職員、家族や地域の代表などを構成員として継続的に開催し、率直な意見を頂き、前向きに対応している。家族と職員との関係は良好で、家族の要望にも積極的に対応しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が話し合って理念を作成。目の届くところに掲示している。また、毎朝理念を唱和している。	職員間で作った「相手を敬う、相互援助、継続は力」の趣旨の基本理念を、事務コーナーのところに掲示し、朝の申し送り時などに唱和して再確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元自治会によるお祭り(バザー品の提供もやっている)・どんど焼き・そばうちに招待していただき、積極的に交流に努めている。また、地域の保育園との交流会を行った。	自治会には加入していないが、運営推進会議の地域住民代表の方からの情報提供を受け、地域の行事に参加しながら積極的に交流を深めている。また、今年から近くの保育園児9人の訪問を受け、一緒にゲームを楽しむなど、入居者は喜んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との交流の中で認知症の方への理解や支援方法を伝え、活かしてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者の状況・活動状況を報告。また外部評価結果を配布し、具体的な取り組み状況を説明しながら報告している。役員より様々な意見をいただき、運営に生かしている。	2か月に1回は開催している。家族等からは、診療所と一体の建物であるため土・日曜日の入口がわからないなどの意見が出され、階段のところに看板をつけたり或いはインターホンの設置を検討するなどして対応している。更にエレベーターから入る時は、暗唱番号を廃止して自由に入れるようにした。	2か月に1回は確実に開催し、会議も活発に行われていることは高く評価できる。今後は固定した構成員の他に、議題に応じて地元消防団、警察官などに臨時的に出席して頂き専門的な話を聞くことを検討することも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へは、市の介護保険課より参加いただき、ホームの状況を報告している。様々な書類の提出の際は、直接足を運ぶよう心がけている。	運営推進会議の構成員でもあり、会議の際には介護保険に関する情報提供や、ホームの現状や課題について理解してもらっている。また、申請書類の提出などで市へ出かける際にも助言や指導を頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束その他の行動制限廃止マニュアルを作成。身体拘束をしない方針で職員間で話し合いながらケアに取り組んでいる。エレベーターは、診療所が併設している為、やむを得なく施錠している。外出したい際はすぐ外出援助できるよう心がけている。	身体拘束をしない方針については、職員の打合せの際に管理者からよく話し、職員間でも徹底されている。また、言葉使いについても管理者がミーティング時や個別に指導している。なお、診療所と一体の建物のためやむを得ず施錠はしている。	

グループホームかわせみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会に参加したり、ミーティング時に話し合いをするなど学ぶ機会を持っている。また処遇に対し苦情・問題等が発生した場合個別に話を確認し、内部での異動などの対応を行う。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会などに参加するなどして、後日伝達講習を行い、学ぶ機会を持っている。今後も研修等に参加し理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や改定時には、詳しく説明し、重要事項説明書・契約書等の説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱をホーム内に設置している。また、ご家族アンケートを行い掲示をしている。スタッフはご利用者ご家族が、気楽に要望が言える関係となるよう努力している。	家族からの要望(一泊旅行に行きたい、DVD機器を購入して欲しいなど)については、前向きに検討している。家族会はないが、花見、忘年会などの時に家族からの要望を良く聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングにおいて、様々な運営に関する話し合いを行っている。必要により管理者が介護職員の個別面談を行い、要望・希望などを聴取する機会を持っている。	設備や運営、利用者の処遇等さまざまな意見が職員から出されるので、その都度反映させながら対応している。必要に応じて職員との個別面談も実施しながら、意見や提案を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの勤務状況を把握し、給与に反映させている。また、忙しい中短時間でも休憩が取れるよう配慮している。職員はやりがいを感しながら向上心をもって就業している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの勤務年数や力量に応じ、研修・勉強会に参加している。		

グループホームかわせみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実習の受け入れを行うなど、市内事業所間の連携は図れている。また市内グループホームの食事会にも参加し交流がある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に、ご本人の意見・要望不安な事など聞き、安心して生活していただけるよう努力している。入居後も随時聴取し、介護計画更新時に反映されている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に要望・不安な事を伺っている。入居時には、ホームでの様子をご家族に電話で報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時や相談時、ご本人の様子など伺い、グループホームの内容を話し、他施設を紹介したりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の得意分野を理解し、生活の中でご本人より学ぶ機会を作るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人についての現状を報告するとともに、相談しながら処遇に役立てている。またご家族との行事を作り、一緒に時間を過ごしていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時は、お茶とお菓子を提供し自室でゆっくりと過ごしていただいている。ご家族の協力による外出・外泊など個別に対応している。また思い出の場所に訪問できるように取り組んでいきたい。	家族からなじみの店の情報を得て、ドライブや買い物に行く時に立ち寄るなどして、馴染みの関係が継続できるように支援している。最近では当ホームの近くのスーパーに出かけることが多く、馴染みの店になってきている。	

グループホームかわせみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの人間関係・相性を把握し座席の配置に配慮している。会話行動を観察しさりげなく間に入るなど気配りしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院となっても面会に行ったり、他施設利用となる場合はご家族と共に探し連絡をとっている。また、退居されたご家族と交流を持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時など日々意向を聞いたり、日常の会話の中で意向を組みとっている。それをプランに反映させ、実現できるものについては支援をしている。	家族から昔の生活状況を聞いたり、或いは入居者の行動や状態を見ながら、日々の支援を通して、思いや意向の把握に努めている。お昼過ぎからおやつの時間の間に外出を希望する入居者が多いので、状況に応じて対応しており、入居者には満足していただいている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に話を伺ったり、サービス利用していた施設などに問い合わせ、情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のペースに合わせて過ごしていただいている。何事でも「できない」とするのではなく「できるかもしれない」を念頭におき、まずは行なっていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画更新時、また必要に応じ随時ご利用者・ご家族より希望を聴取し、計画に反映している。	穏やかに安心して生活してほしい、好きな歌を歌い仲良く過ごしてほしいなどの家族の要望や本人の希望を踏まえながら、ケース会議やミーティング等での職員の意見も反映させて、介護計画の作成・見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録については、具体的にわかりやすいように行っている。その情報をケース会議・ミーティング等において共有し、介護計画に反映させている。		

グループホームかわせみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の診療所受診には職員が付き添い、直接主治医と情報交換がなされている。リハビリが必要な方については、併設老人保健施設のリハビリスタッフに評価いただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	実習生の依頼は断ることなく受け入れている。地域の商店の方々にも入居者であることを理解いただき自然に対応いただいている。今年は保育園との交流会を行うことができた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後は、希望によりかかりつけ医を併設診療所に変更し、職員付き添いの上受診。他の医療機関受診の必要が生じた際は紹介状を依頼し、ご家族の協力により受診している。	緊急時でも医師が近くに住んでいること等も踏まえ、入居時に確認を取り、入居者全員が法人母体のクリニックにかかりつけ医を変更している。家族の要望時や歯科医院等の受診の際には家族の協力を得ながら他の医療機関を受診しており、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	診療所が併設している為、密に連絡を取り合い、連携が図れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族と面会・電話により状態を確認し、入院先関係者・医師より情報収集し退院の日程を調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族・ご本人の希望によりできる限り継続して入居できるよう医師と相談しながら対応。介護職へもその方向性・グループホームでの限界点をその都度周知している。ご家族にはその都度説明し、重度化・急変の可能性について随時説明している。	診療所と同じ建物の3階が病室となっているので、終末期になると診療所へ移動することが多いが、移動するまでの間は医師・看護師の協力を得て介護している。家族はホームの方向性を理解し、医療機関と連携をしている当ホームを選択する意向がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は併設診療所より協力いただき迅速に対応できている。以前は毎年交代で消防署の救急法講座を受講していた。だが実践力に乏しいため、引き続き勉強が必要。		

グループホームかわせみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回併設診療所と老健合同で消防訓練を行っている。運営推進会議へ地域の消防団長がオブザーバーで登録している。以前グループホームの消防の内覧会を行った。今後も定期的に内覧会を行っていく予定。	年2回消防訓練を実施し、うち1回は夜間想定で行っている。同法人の診療所、老人保健施設、ケアセンターの職員と連携して対応する体制になっている。また、地域の方に訓練への参加を呼びかけているが、仕事が多忙等の理由により参加はされていない。水の備蓄があり、電気は自家発電で対応している。	夜間想定での消防訓練を実施しているが、夜間は職員が一人になり不安な面もあるので、地域の方に緊急連絡網に入って頂く、或いは消防訓練に参加頂くなどの協力が得られるように努力することを今後期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の人としての尊厳を大切にしよう方針を立てている。その方の人格を尊重した言葉かけ、言葉使いに注意をしている。	人生の先輩であるので、「さん」付けで呼ぶなど、尊厳の保持を心がけると共に、言葉かけなどで日頃気になることは、職員間で話し合いながら、誇りやプライバシーを損ねないように注意している。また、トイレや個別の外出など小声で話した方が良い際の言葉かけ等にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護計画更新時に、希望や不安などを聴取する他、1対1の時など話しやすい時に希望を表出できるよう働きかけ、処遇に生かすよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物など必要に応じ、希望に沿って外出する。日課は大まかな流れのみで自由が利くものとしている。起床時間もその方に合わせて起床していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要なものはご本人と共に買い物に出掛けるようにしている。理美容は職員が希望に沿って散髪しているが、ご家族の支援がある方は昔からの馴染みの店に通っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者それぞれのできることを手伝っていただいている。できるだけ季節の旬のものを提供し季節を感じてもらえるよう配慮している。	入居者の出来ることに配慮して、厨房に入ったり配膳などを一緒に行っている。献立はその日の食材で職員が考えており、同法人の老人保健施設の管理栄養士にアドバイスを受けている。また、入居者の希望に応じて、外出に出かけたり、個別にハンバーガーを食べに行くなどの支援も行っている。	

グループホームかわせみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3ヶ月に1度併設老健の栄養士にメニューをチェックしていただいている。毎食チェック表により食事量をチェック。体調の変化により、栄養補助食品も導入する。水分摂取のチェックを行っているかたもいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個人の能力に応じた支援を行っている。週1回入れ歯を薬剤洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	多少失禁があっても、ご本人が拒否するようであれば、むやみにオムツを装着しない。便秘については一人ひとりの排泄パターンに応じて医師に相談しながら下剤の調整を行っている。	入居者一人ひとりの排泄の時間帯に応じて声掛けをするなど、自立した排泄が出来るように支援している。また、便秘の予防のために、食事の時にお茶を2杯飲んでもらったり野菜や牛乳も奨めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を提供。運動を啓発しながら便秘解消に取り組んでいる。下剤による管理が必要な方については医師に相談しながら調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人が拒否した場合は無理に誘導せず次の日に誘導している。自立者に対しては必要以上に干渉せず自分のペースで入浴いただいている。また時間に余裕がある際は希望者に入浴していただいている。	原則として週2回、3~4人で、午後の時間に職員が一对一で支援している。当日に入浴が出来なかった場合には翌日に入浴できるように、毎日お湯を沸かしている。また、入浴剤を利用し季節感を出している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースを把握し無理に睡眠を促さないようにしている。その人の習慣を継続できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状について医師より直接説明を受けた上で薬剤の情報提供書を作り、申し送りにより情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	基本的には毎日自由に過ごしていただいている。趣味の材料など必要なものは直接ご本人と買い物に出るなど個別に支援している。		

グループホームかわせみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・散歩・ドライブなど日常的に地域に出る機会を作っている。日によって、希望を聴取し外出の支援を行っている。また、ご家族の方も外出支援に協力してください。	ほぼ毎日、ホーム周辺を散歩している。希望に応じて近隣の町のお花見やレジャー施設等の娯楽施設に出かけている。なお、トイレや階段の有無については配慮している。また、家族にも入居者を連れて食事に出掛けていただくなど、外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族同意の上で、毎月立替の財布を個別に用意し、自由に使えるよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、ご本人が電話をかける援助や年賀状を書く援助をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活室の窓にはロールカーテンとすだれを用いて日差しを調整している。テーブルには季節の花などを飾り、台所の仕切りは手作りで作成した。居室はそれぞれ違うのれんをかけ、常夜灯には手作りの調光具を取り付け光量を調節している。	日中は共用空間にあるテーブルで休んでいることが多い。端の方に煙草を吸ったり一人で過ごしたい時のためにテーブルを置くなど、入居者が思い思いに過ごせる工夫がされている。また、入居者の作品や外出・行事に参加した際の写真を掲示してありアットホームな雰囲気がある。ペランダでトマト、レタス、ゴーヤ、なす等の栽培を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個室となっており、それぞれ一人の時間を楽しんでいる。共同生活室にも手作りの仕切りを作り、個々の居場所を確保している。時には利用者同士で訪問されるなど自由に過ごされている。畳を使用している方もいる。コタツは可能であれば、今後検討していきたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各個人、無理なく負担とならない範囲で家具類を持ち込んでいただいている。ベットは用意しているが、ベット柵は手作りカバーをつけ家庭的になるよう心がけている。居室に家族の写真を飾っている方もいる。	ホームでは、ベット・敷き布団、カーテンを用意し、家庭で日頃使い慣れたタンス、テーブル、椅子などを持ち込んでいる。家族の写真や位牌などを置き、居心地よく過ごせるようになっている。部屋に籠もらない工夫として、テレビは持ち込まないようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内各所に手すりを設置。居室、トイレ内にもてすりを増設し、必要に応じその都度増設してきた。また、場所がわかりやすいようにシグナルを設置し自立した生活への工夫をしている。		